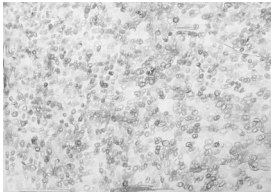


編集委員の選考会にて、来年（第57巻）のOTジャーナル表紙に選ばれた作品です。



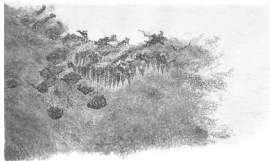
1月号「雪」 山形 真由子

神奈川県立麻生養護学校にはアートグループがあり、彼女は美術グループに所属しています。週に2日、自分の好きな絵を描ける時間があります。何を描いているの？と聞くと、「ゆきだよ」と教えてくれました。画面いっぱいに描かれた雪。絵を通して彼女の見えている素敵な世界をのぞくことができます。（美術グループ担当：宮澤）



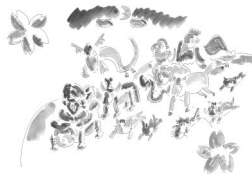
2月号「恐竜の化石掘りたいね！」 前田 晴太

この作品は茶色の絵の具を見た途端に思いついたようで、黙々と自分のイメージを形にしていきました。発症前の記憶、大好きだった化石への思いが残っていたこと、夢中に取り組む姿は入院生活を共にする私には希望に映りました。これからも一つひとつ自信を積み重ね、小さくても一歩ずつ前に進めるよう、一緒に歩いていきたいです。（母）



3月号「春霞とデイケア裏山、野生の藤」 藤山 光彦

左視床出血で右片麻痺となり3年が経過します。自宅とデイケア週2日の日々の日々は、何かしなければ、何だったらできるのかで止まっていますが、PTの先生から表紙募集の話がうかがい、その場でやると決めました。春のどこかな日中の春霞の景色の中、隣の樹に絡ませながら遅く生きる藤から、生命力をいただきました。



4月号「じゅうにしのさくら」 宮本 知幸

統合失調症になって、26年が経とうとしています。メンバーやスタッフに支えられながら、楽しい毎日を過ごしています。つらいときもあります。でも仲間がいるから頑張れます。絵はいつも僕のそばにありました。もっともっと絵がうまくなりたいです。これからも精進して、絵本作家という大きな夢に向かっていきたいと想います。



5月「ネモフィラの楽園より」 氷砂糖

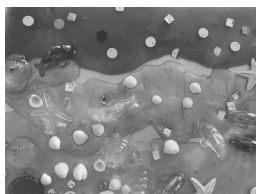
春の穏やかな風景や美しい花々を描きたかったので、青色が綺麗なネモフィラを選びました。また、蝶が好きなので一緒に描きました。ガイドブックや写真を参考にしています。いつか本物のネモフィラを見ながらスケッチしたいです。タイトルは蝶目線でつけました。蝶から見た「楽園」や「幸せそうな雰囲気」が伝われば幸いです。



6月号「眠たいボク」 牧田 勲

すべてのものとの出会いは「一期一会」だと思っています。今、そのときにしか感じられない気持ちや見えたものをそのまま残すこと。そして感謝することを絵を描くことを通じて感じているのだと思います。

次年も募集致します。どうぞ、奮ってご応募ください。（詳細は次頁をご覧ください）



7月号「一期一会」 宇野澤 実里

スライム（ジェル状粘土）や貝殻のおもちゃを並べてつくりました。筋疾患のため手を動かすだけでも大変。でも遊びながらいつの間にか完成しました！ 何気ない今日はそのとき限り。この作品も同じものはつくれません。人との出会いやその日のことを大切に、つくった人とも一緒に思い出して語り合えるような作品にしました。



8月号「ウクライナの平和」 山村 隆政

頸髄損傷で車いす生活になり、思うように身体を動かさず、長年やってきた絵を描くことも、ペンを持つことさえできなくなりました。この身体になって約5年、“描く”ことをリハも兼ねて継続してきたことや、妻の応援のおかげで、大好きな絵を再び描けるようになりました。これからも自分らしい絵を描き続けていきたいです。



9月号「秋がいっぱい」 石崎 洋二

秋は楽しいこと、美味しいものがいっぱい。あれこれと次々に頭に浮かんでくるので、それをそのまま絵に描いたそうです。絵を描くこと以外では、料理、パン、菓子づくり、水泳、スキー、鉄道、旅行、歴史や地理の勉強等、好奇心が旺盛で、これらの知識や経験から発想を得て、きれいで明るい絵を楽しく描いています。（母）



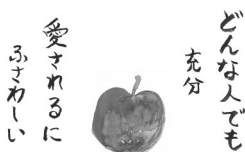
10月号「走る ぼく」 田尻 実路

ブラダー・ウィリー症候群の息子は、生後6カ月ごろから理学・作業療法に通いました。今では歌やダンス、スイミングが大好きです。作品は支援学校の運動会で走っている自分の姿だそうです。これからも、お友だちや先生方とたくさんの経験をして、作品の絵のように笑顔で豊かな人生を送ってくれることを願っています。（母）



11月号「文化の日」 高谷 榮一

高谷さんは自宅にて転倒し、当院へ入院されました。病棟の談話室から京都市内の景色を眺めると落ち着きが感じられたので、作業療法では趣味である水彩画を勧めると、高谷さんはその景色を真剣に描きはじめました。絵画を通して自身と向き合ったことにより、穏やかな心情を取り戻していったように感じられます。（担当 OT：泉田）



12月「絵手紙 りんど」 りんど

外来作業療法を利用されているりんごさんの作品です。作業療法では病院の広報誌に載せる絵手紙や詩を編集しています。今回の作品は「顔彩を使って絵手紙を描いています。茶色とえんじ色のぼかしが少し難しかったです」とのこと。作品が自分の手を離れ、誰かに見てもらえることがとてもうれしいと話しています。（担当 OT：宮阪）